令和２年度 厚生労働科学研究費補助金
（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業））
分担研究報告書

父親の健康状態および育児参加の効果に関する研究

研究分担者　加藤 承彦（国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部・室長）

研究要旨

背景：2010 年に厚生労働省が男性の育児参加や育児休業の取得を促進するイクメンプロジェクトを開始して以来、父親の育児参加に関する社会の関心が急速に高まりつつあり、徐々に父親も積極的に育児参加することが期待される社会に移行しつつある。しかし、父親が置かれている現状や父親が育児参加することにどんな影響があるのかについては、国内の研究ではあまり明らかになっていない。よって、父親の健康状態に関するデータ分析と父親の育児参加の影響に関する既存の研究の知見のまとめを行った。

方法：父親の健康状態の分析については、2016 年の国民生活基礎調査のデータを用いた。父親の育児参加の効果については、2010 年以降に和文学術誌に掲載された原著論文および 2000 年以降に英文学術誌に掲載された原著論文の内容をまとめた。

結果：国民生活基礎調査に含まれているメンタルヘルスに関する質問項目（K6 尺度）を用いて、生後 1 歳未満の子どもがいる世帯の父親のメンタルヘルスを分析した結果、不調のリスクあり（K6 尺度の合計点数＞＝9 点）と判定された割合は、11.0%だった。夫婦が同時期に不調と判定された割合は、3.4%だった。また、18 歳以下の子どもがいる世帯のシングルファーザーにおいて、重度のメンタルヘルスの不調のリスクあり（K6 点数＞＝13 点）と判定された割合は 8.5%で、ふたり親世帯の父親の割合の 5.0%より高かった。父親育児の参加の影響に関する知見のまとめからは、父親の積極的な育児参加は、母親の育児負担感の低さや幸福度の高さと関連する傾向が確認された。また、子どもの成長において、事故の予防や肥満の予防などと関連していた。

考察：これまで日本国内において、父親の健康状態に着目した研究はあまりなく、今回の研究において、乳児を養育する父親やシングルファーザーなどの中に支援が必要である人が一定数いることが示された。また、父親の育児参加には、母親や子どもに良い影響がある可能性が示唆された。

結論： 今後、父親の育児参加を推奨していく上で、父親の健康状態などにも留意し、支援を必要とする父親に公的なサポートが提供できるような環境づくりをする必要がある。

次年度への課題：本年度の研究においては、父親が置かれている現状については、明らかにすることができたが、父親の育児参加の影響について、新規の知見を示すことができなかった。引き続き政府統計のデータを用いて、父親の育児参加の影響について明らかにしていく予定である。

研究協力者：
Bibha Dhungel（国立成育医療研究センター研究所
政策科学研究部・研究補助員）

A．研究目的

本研究の目的は、父親の現状と父親の育児参加の影響について明らかにすることである。近年、厚生労働省が実施するイクメンプロジェクトなどの影響により父親の育児参加に対する社会の関心が高まりつつあり、2021 年 4 月現在で男性の産後休暇取得の促進の義務化が規定路線となっている [1)]。しかし、その一方で日本の父親の健康や生活の状況について明らかにした研究はなく、また父親の育児参加が母親や子ども、父親自身に対してどのような影響があるのかについて明らかにした研究は日本国内ではほとんど実施されていない。よって、今回の研究では、下記の三つの分析を実施した。

１．乳児がいる世帯における父親および夫婦のメンタルヘルスの状況

２．シングルファーザーのメンタルヘルスの状況

３．父親の育児参加の影響についての知見のまとめ

以降、上記の三つの分析の内容および結果について詳述する。

B．研究方法

１．乳児がいる世帯における父親および夫婦のメンタルヘルスの状況

本分析では、2016 年の国民生活基礎調査のデータに含まれている一歳未満の子どもがいる 3,514 世帯の父親と母親に両方を対象とした。世帯票および健康票のデータを用いて、父親と母親それぞれおよび両者のメンタルヘルスの不調の状況と関連する要因について、単回帰および重回帰分析を行った。対象者の抽出のプロセスについては、図 1 に示す。国民生活基礎調査の調査方法については、厚生労働省のホームページに記載されているため割愛する [2)]。なお、本研究の成果は、Scientific Reports 誌に掲載されている [3)]。

２．シングルファーザーのメンタルヘルスの状況

分析 1 と同様に、国民生活基礎調査の 2016 年データを用いた。対象者は、18 歳以下の子どもがいる父親で、シングルファーザーが 868 人、ふたり親世帯の父親が 43,880 人だった。対象者の抽出のプロセスについては、図 2 に示す。父親のメンタルヘルスの状況の指標として K6 尺度を用い、メンタルヘルスの不調の状況と関連する要因について、単回帰および重回帰分析を行った。

３．父親の育児参加の影響についての知見のまとめ

父親の育児参加の影響について系統的レビューをおこない、乳幼児期の子どもがいる家庭における父親の育児参加の影響について、NICU に入院していたなどの特殊な事情や双子・三つ子などの特徴がない一般人口を対象とした質問紙調査による定量的研究を実施して得られた知見に関する原著論文を和文英文ともに検索した。和文論文の検索には、医学中央雑誌文献データベース、JSTPlus、JMEDPlus を用いた。キーワードは、「乳幼児関連」、「父関連」、「育児関連」で、検索は、2010 年以降掲載されたものに限定した。検索により該当したのは、423 編で、タイトル、抄録の情報を用いて、父親の育児参加の影響について研究したものに限定したところ、26 編が選定基準を満たした。それら 26 編について論文を取り寄せ、本文の内容を精査し、父親の育児参加が曝露要因ではなくアウトカム要因になっているものなどの 7 編を除外し、最終的に 19 編に絞り込んだ。

英文論文は、Pubmed を用いて検索し、該当する論文が少数であったため、2001 年からの 2021 年までの過去 20 年間に期間を拡大して検索をおこなった。キーワードを「father OR paternal」、「childcare OR child care OR coparenting OR involvement」、「Japan」で検索したところ、370 編が該当した。タイトルおよび抄録から、日本以外で実施された研究、一般人口を対象としていない研究、定量的分析を行っていない研究、ホルモンや遺伝子を分析した基礎研究などに該当する 364 編を除外し、残りの 6 編を取り寄せ、本文を精査した。最終的に、父親の育児参

加の影響を検証した内容であることが確認できた 4 編に絞り込んだ。

（倫理面への配慮）

本研究で使用した政府統計のデータは統計法に基づく 2 次利用申請により使用の承諾を得たものである（令和 3 年 3 月 2 日付け [厚生労働省発政統 0302 第 3 号]）。また、本研究は，国立成育医療研究センターの倫理審査委員会の承認を得て実施した（令和 3 年 3 月 4 日承認，承認番号 2020-955）。

C．研究結果

１．乳児がいる世帯における父親および夫婦のメンタルヘルスの状況

分析対象者の社会経済状況については、表 1-1 に示す。また、13 ヶ月未満の子どもの月齢の分布は、表 1-2 に示す。K6 尺度を用いた中程度以上のメンタルヘルスの不調の割合は、父親、母親のいずれかの場合だと 15.1%で、両方の場合だと 3.4%だった。父親が、中程度以上の割合は、14.7%で、母親が中程度以上は 14.3%とほぼ同じ割合だった。単回帰および重回帰分析では、父親と母親の両方における中程度以上のメンタルヘルスの不調をアウトカムとして用いた。関連が疑われる世帯の因子として、住んでいる地域の大きさ、子どもの数、双子かどうか、子どもの月齢、対象児の性別、子どもの月ごとの出費、日中の主な養育者を含めた。父親関連の因子として、年齢、教育歴、心の病気で治療を受けているか、喫煙、飲酒、睡眠時間、週あたりの労働時間を含めた。母親関連の因子として、年齢、教育歴、心の病気で治療を受けているか、喫煙、飲酒、睡眠時間、週あたりの労働時間を含めた。これらの因子とアウトカムとの関連の重回帰分析の結果、子どもの月齢が高い群（6-12 ヶ月）、父親の喫煙習慣あり、父親の労働時間（55 時間以上）、母親の睡眠時間がアウトカムと関連していた（表 1-3 参照）。

２．シングルファーザーのメンタルヘルスの状況

分析対象者の社会経済状況については、表 2-1 に示す。K6 尺度が 13 点以上の場合を重度のメンタルヘルスの不調と定義しアウトカムとして用いた結果、シングルファーザーで 8.5%が該当した。ふたり親世帯の父親では、5.0%だった。シングルファーザーとふたり親世帯の父親を比較した場合、教育歴が低い傾向や、正規雇用でない傾向が見られた。シングルファーザーの群において、メンタルヘルスの不調と関連する要因を分析した結果、雇用状況や睡眠時間などとの関連が見られた（表 2-2 参照）。

３．父親の育児参加の影響についての知見のまとめ

父親の育児参加の影響に関する過去 10 年間の和文論文および過去 20 年間の英文論文の文献レビューの結果を表 3-1 にまとめた。母親が対象者であった論文が 8 編、父親が対象者であった論文が 4 編、母親と父親両方が対象者であった論文が 10 編だった。主な結果のまとめとして、次の二点の傾向が見られた。第一点目として、母親が父親の積極的な育児参加を認知している場合、母親の育児負担感が低く、幸福度が高い傾向が見られた。また、子どもの成長においても、母親が父親の積極的な育児参加を認知している場合、子どもの健康や発達（怪我や肥満の予防）に良い影響を及ぼしている可能性が示唆された。しかし、第二点目として、父親が自分自身で評価した育児参加の度合いは、母親の負担感などとは直接に関連しない可能性が示唆された。父親の育児参加が父親自身に与える影響（QOL 等）は、研究の数が少ないこともあり、あまり明確な知見が得られなかった。また、父親の育児参加の評価の方法がそれぞれの研究で異なっていた。父親が育児参加にストレスを感じている場合、子どもの虐待のリスクや母親の不満度を高める可能性についても示唆された。

D．考察

１．乳児がいる世帯における父親および夫婦のメンタルヘルスの状況

分析の結果、13ヶ月未満の子どもが父親、母親のいずれかまたは両者のメンタルヘルスが良好でない世帯が一定数いることが明らかになった。母親の産後うつについては、社会の関心が高まりつつあるが、本分析の結果、母親だけでなく、父親の健康状態にも注意を払う必要が示唆された。父親と母親の両者の健康状態が同時に悪化した場合、幼い子どもの養育に悪影響を及ぼすことが予想される。そうした状況を防ぐためにも父親と母親の両者に介入を行う必要があると考えられる。

２．シングルファーザーのメンタルヘルスの状況

シングルファーザーの群において、メンタルヘルスの不調の割合が高いことが確認された。日本国内においては、シングルファーザーを対象とした大規模な調査はほとんど実施されておらず、貴重な知見が示された。

３．父親の育児参加の影響についての知見のまとめ

父親の育児参加の影響に関する過去 10 年間の和文論文および過去 20 年間の英文論文の文献レビューの結果、次の二点の傾向が見られた。まず、第一点目として、母親が父親の積極的な育児参加を認知している場合、母親の育児負担感が低く、幸福度が高い傾向が見られた。子どもの成長においても、母親が父親の積極的な育児参加を認知している場合、子どもの健康や発達（怪我や肥満の予防など）および第二子や第三子の出生に良い影響を及ぼしている可能性が示唆された。しかし、第二点目として、父親が自分自身で評価した育児参加の度合いは、母親の負担感などとは直接に関連しない可能性が示唆された。この可能性については、他の文献でも言及されている[4)]。

Ｅ．結論

近年、父親の積極的な育児参加に対する社会の期待が高まりつつあるが、その一方で父親の現状に関する情報や積極的に育児参加することでどのような影響が予想されるのかについてはほとんど明らかになっていない。国民生活基礎調査を用いた二つの分析では、乳児がいる世帯の父親の中である特徴を持つ人やシングルファーザーにおいて精神的不調の割合が高いことを明らかにした。文献レビューでは、父親の積極的な育児参加は、母親の育児に対する満足度や子どもの成長に良い影響をおよぼす可能性が示唆されたが、その一方で、父親が育児にストレスを感じる場合、予期せぬ負の影響が起きる可能性も示唆された。これらの知見を統合すると、単に父親の積極的な育児参加を推奨するだけなく、父親が積極的に育児参加できるよう健康状態をまず整えることができる環境づくりや、育児に対してストレスを感じる父親に対しては支援を行う必要性が示唆された。

引用文献

1) 厚生労働省. イクメンプロジェクト 東京: 厚生労働省; https://ikumen-project.mhlw.go.jp/.
2) 厚生労働省. 国民生活基礎調査 東京: 厚生労働省; https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html.
3) Takehara K, Suto M, Kato T. Parental psychological distress in the postnatal period in Japan: a population-based analysis of a national cross-sectional survey. Scientific Reports. 2020;10(1):1-9.
4) 尾形和男. 父親の心理学. 京都府: 北大路書房; 2011.

Ｆ．研究発表

１．論文発表

Takehara, K., Suto, M., & Kato, T. (2020). Parental psychological distress in the postnatal period in Japan: a population-based analysis of a national cross-sectional survey, Scientific Reports, 10, 13770.（査読有）

２．学会発表　なし

G．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

１．特許取得　なし

２．実用新案登録　なし

３．その他　なし

図１　分析１における対象者抽出の流れ図

224208世帯（568426人）	
↓	
→	子どもなしや子どもが13ヶ月以上の世帯 220337世帯
↓	
3871人世帯 父親3733人、母親3860人	
↓	
↓	
→	ひとり親世帯、アウトカムの欠損 357世帯
↓	
3514世帯	

図２　分析２における対象者抽出の流れ図

	224208世帯（568426人）	
	↓	
	→	子どもなしや子どもが18歳以上の男女 522794人
	↓	
	45632人の父親	
	↓	
	↓	
	→	アウトカムの欠損 884人
	↓	
	44748人	
	↙ ↘	
シングルファーザー 868人		ふたり親世帯の父親 43880人

表 1-1　対象の世帯の父親と母親の社会経済的状況

		父親		母親	
		n	%	n	%
年齢		33.9	6.0	32.1	5.1
教育歴	高校卒業またはそれ以下	1859	58.5	2212	69.9
	高校卒業以上	1320	41.5	952	30.1
こころの病気による病院通いの有無	あり	571	16.3	584	16.7
睡眠時間	＜6 時間	1426	40.6	1704	51.4
	＞＝6 時間	2084	59.4	188	48.6
喫煙習慣（毎日もしくは時々）		1407	40.4	188	5.4
飲酒習慣（週 1 回以上）		1749	50.2	207	5.9
雇用あり（育児休業含む）		3479	99.3	1545	44.0
労働時間	＜55 時間	2431	73.6		
	>=55 時間	872	26.4		
労働時間	0 時間			2675	80.4
	＞＝1 時間			653	19.6

表 1-2　子どもの月齢ごとの父親と母親のメンタルヘルスの不調の割合

	子どもの月齢				全体
	0-3 ヶ月	3-6 ヶ月	6-9 ヶ月	9-12 ヶ月	
父親					
中度もしくは重度の不調	10.4	11.0	11.1	11.2	11.0
重度の不調	3.3	3.7	4.5	3.3	3.7
母親					
中度もしくは重度の不調	11.2	8.7	11.7	11.5	10.8
重度の不調	3.0	2.9	4.5	3.4	3.5
父親または母親どちらか					
中度もしくは重度の不調	14.7	16.1	13.9	15.6	15.1
重度の不調	4.0	5.8	6.3	4.5	5.2
父親母親両方					
中度もしくは重度の不調	3.4	1.8	4.5	3.6	3.4
重度の不調	0.7	0.1	0.3	0.5	0.4

表 1-3　父親と母親の両者が中程度または重度のメンタルヘルス不調と関連する要因

		粗オッズ比	95%信頼区間	調整オッズ比	95%信頼区間
子どもの月齢	0-6 ヶ月	Reference		Reference	
	6-12 ヶ月	1.61	(1.09-2.36)	1.58	(1.02-2.45)
父親関連					
教育歴	高校卒業またはそれ以下	Reference		Reference	
	高校卒業以上	0.89	(0.62-1.32)	0.90	(0.57-1.40)
喫煙習慣	あり	1.39	(0.98-2.01)	1.54	(0.99-2.39)
労働時間	＜55 時間	Reference		Reference	
	＞＝55 時間	1.41	(0.96-2.10)	1.61	(1.05-2.49)
母親関連					
睡眠時間	＞＝6 時間	Reference		Reference	
	＜6 時間	1.57	(1.10-2.30)	1.81	(1.17-2.79)

*その他、住居地区、子どもの数、子どもの性別などの要因を調整

表 2-1　シングルファーザーとふたり親世帯の父親の社会経済的状況

		シングルファーザー		ふたり親世帯の父親	
		n	%	n	%
年齢		43.3	8.7	42	7.7
教育歴	高校卒業またはそれ以下	449	51.7	2212	39.5
	高校卒業以上	288	15.2	17311	49.2
	欠損	131	77.1	21608	11.3
雇用状況	正規	538	62.0	33873	77.2
	Irregular	72	8.3	1429	3.3
	self-employed	183	21.1	7372	16.8
	失業中	52	6.0	602	1.4
	欠損	23	2.7	604	1.4
労働時間	＜＝39 時間	263	34.9	10700	26.4
	40-55 時間	377	50.1	19858	49.0
	＞＝56 時間	113	15.0	9982	24.6
こころの病気による病院通いの有無	なし	659	75.9	33993	77.5
	あり	198	22.8	9650	22.0
	欠損	11	1.3	237	0.5
昨年度の健診受診なし	あり	263	34.9	10700	0.5
	なし	377	50.1	19858	49.0
	欠損	113	15.0	9982	24.6
睡眠時間	＜6 時間	363	41.8	18555	42.3
	6 時間以上	500	57.6	24999	57.0
	欠損	5	0.6	326	0.7
飲酒習慣	あり	490	56.4	28537	65.0
	なし	361	41.6	14797	33.7
	欠損	17	2.0	546	1.2
喫煙習慣	あり	465	53.6	17651	40.2
	なし	383	44.1	25600	58.3
	欠損	20	2.3	629	1.4
社会心理的ストレス反応	あり	794	91.5	41689	95.0
	なし	74	8.5	2191	5.0
住居	持ち家	680	78.3	32463	74.0
	借家	188	21.7	11417	26.0
家族構成	核家族	370	42.6	35638	81.2
	三世代同居	498	57.4	8242	18.8
一人あたりの出費	＜5 万円	198	22.8	11115	25.3

	5.0-7.4 万円	322	37.1	16439	37.5
	7.5-9.9 万円	138	15.9	8157	18.6
	＞＝10 万円	170	19.6	6403	14.6
	欠損	40	4.6	18028	4.0
末子の年齢	0-5 歳	94	10.8	12948	41.1
	6-11 歳	269	31.0	12904	29.5
	12-17 歳	505	58.2	1704	29.4
子どもの数	1 人	553	63.7	18323	41.8
	2 人以上	315	36.3	25557	58.2

表 2-2　シングルファーザーの群における K6 尺度による中程度または重度のメンタルヘルスの不調と社会経済状況との関連

		粗オッズ比	95%信頼区間	調整オッズ比	95%信頼区間
教育歴	高校卒業またはそれ以下	Reference		Reference	
	高校卒業以上	0.98	(0.56-1.70)	1.05	(0.54-2.02)
雇用状況	正規	Reference		Reference	
	非正規	2.05	(0.94-4.47)	2.10	(0.85-5.22)
	自営業	0.92	(0.46-1.85)	0.33	(0.12-0.96)
	失業中	3.42	(1.58-7.39)	2.19	(0.74-6.50)
こころの病気による病院通いの有無	あり	1.37	(0.79-2.36)	1.09	(0.52-2.27)
昨年度の健診受診なし		1.59	(0.95-2.64)	2.03	(0.98-4.24)
睡眠時間	＜6 時間	2.01	(1.22-3.31)	2.02	(1.08-3.79)
飲酒習慣あり		1.35	(0.83-2.21)	2.02	(1.08-3.79)
喫煙習慣あり		1.46	(0.87-2.44)	1.74	(0.89-3.42)
住居	持ち家	Reference		Reference	
	借家	1.18	(0.68-2.06)	0.45	(0.19-1.09)
家族構成	核家族	Reference		Reference	
	三世代同居	0.68	(0.42-1.09)	0.63	(0.32-1.21)
一人あたりの出費	＜5 万円	1.30	(0.68-2.48)	0.78	(0.33-1.21)
	5.0-7.4 万円	Reference		Reference	
	7.5-9.9 万円	1.24	(0.60-2.56)	1.07	(0.44-2.61)
	＞＝10 万円	1.17	(0.58-2.33)	1.06	(0.44-2.59)
末子の年齢	0-5 歳	1.10	(0.47-2.57)	1.50	(0.49-4.63)
	6-11 歳	Reference		Reference	
	12-17 歳	1.16	(0.67-1.98)	1.69	(0.79-3.63)
子どもの数	1 人	Reference		Reference	
	2 人以上	0.95	(0.58-1.56)	1.50	(0.75-3.03)

表3-1　父親の育児参加の影響に関する日本国内の研究（和文論文は、2010年以降、英文論文は2000年以降）

著者	年	調査対象者	参加人数	研究参加者の抽出方法	研究デザイン	子の年齢（アウトカム時点）	調査年度	父親の育児参加の測定内容	アウトカム	主な結果	追加の結果
明野ら	2010	母	161	一歳半健診受診	横断	1.5	2007-2008	父親の育児サポートに関する母親の認知10項目（情緒的サポート、手段的サポート、情報的サポート）	母親の育児幸福感	認知得点が高いと育児幸福度（合計点および下位尺度５項目）が高い傾向が見られた。父親の帰宅時間（９時前、９時以降）や平日・休日の育児時間が母親の認知の高さと関連していた。	
森永	2010	父母	767	一歳半健診受診	横断	1.5	2006	父親の親性に関する23項目（役割遂行への不適応感、役割期待への負担感、人間的成長・責任感、児に対する親和性）	母親の育児負担感	父親が役割期待への負担感を感じていると、母親の育児負担感が高まっていた。父親の児に対する親和性が高いと母親の育児負担感が下がっていた。父親の人間的成長・責任は、母親の育児負担感と関連していなかった。	父親の「役割遂行への不適応感」が「役割期待への負担感」と関連していた。
小島ら	2010	父母	563組	幼稚園・保育園	横断	乳幼児	2005	父親の育児家事行動に関する19項目（世話行動、家事行動、相手行動、しつけ行動、妻との対話、危機管理行動）父親の育児家事行動に対する母親の評価に関する13項目（世話行動、家事行動、相手行動、しつけ行動、妻との対話、危機管理行動）	母親の育児に伴う感情	妻との対話を除く父親自身の育児家事行動評価と母親の育児負担感（困難感や疲労感）との間には関連がなかった。核家族群においては、母親が父親の育児家事行動を十分と評価していると母親の充実感が高く、困難感や疲労感が低かった。	核家族群において、父親自身の育児家事行動評価が高いと家族内コミュニケーションなどの家族機能も高い傾向が見られた。
朴ら	2011	父	319世帯	保育園	横断	未就学	不明	父親の育児参加に関する10項目（子どもと一緒に室内で遊ぶ、子どもに絵本を読み聞かせる、子供と一緒に外で遊ぶ、子どもを寝かしつける、子どもを風呂に入れる、子どもに食事をさせる、子どもの下着等を替える、子どもをあやす、保育園や幼稚園の送り迎えをする、看病をする/病院につれていく）	心理的ウェルビーイング（夫婦関係満足感と精神的健康）	父親の育児参加は本人の家族・家庭への貢献感の認知を媒介して夫婦関係満足感と精神的健康に正の影響が見られた。しかし、父親の育児参加と夫婦関係満足感と精神的健康との間に直接の関連は見られなかった。	
田辺ら	2011	父	703	私立幼稚園・保育園	横断	乳幼児	2007-2008	育児行動（9項目）・家事行動（6項目）	ウェルビーイング（父親である自己受容、家庭面、仕事面、心理面、身体面）	労働時間が短い父親の群では、育児行動が父親である自己受容、家庭面に正の影響が見られた。労働時間が長い父親の群では、育児行動が父親である自己受容、家庭面、仕事面に正の影響が見られた。	
桐野ら	2011	父母	278世帯	4と同じ	横断	未就学	不明	父親の育児参加に関する10項目（子どもと一緒に室内で遊ぶ、子どもに絵本を読み聞かせる、子供と一緒に外で遊ぶ、子どもを寝かしつける、子どもを風呂に入れる、子どもに食事をさせる、子どもの下着等を替える、子どもをあやす、保育園や幼稚園の送り迎えをする、看病をする/病院につれていく） 父親の育児サポートに関する母親の認知尺度（情緒的サポートのみ、４項目）	母親の夫婦関係満足感 母親の健康関連QOL	父親の育児参加は、母親の夫婦関係満足感や精神的健康とは関連していなかった。しかし、父親の情緒的育児サポートに関する母親の認知には関連しており、父親の情緒的サポートの母親の認知は、夫婦関係満足感に関連していた。	父親の育児参加は、母親の認知を媒介して、間接的に母親の夫婦関係満足感や精神的健康感に関連していた。

表3-2　父親の育児参加の影響に関する日本国内の研究（和文論文は、2010年以降、英文論文は2000年以降）

著者	年	調査対象者	参加人数	研究参加者の抽出方法	研究デザイン	子の年齢（アウトカム時点）	調査年度	父親の育児参加の測定内容	アウトカム	主な結果	追加の結果
森ら	2012	父母	363組	幼稚園・保育園	横断	3-6	2011	夫婦間のコミュニケーション態度に関する9項目（共感や依存・接近など５項目、威圧や無視・回避などの４項目） 協同育児に関する16項目（相互理解・調整７項目、遊び相手の分担の衡平さ３項目、世話分担の衡平さ３項目、習い事に対する共有や態度３項目）	子どもの社会的行動	父親、母親いずれかの群でも、「相互理解・調整」が高いと子どもの社会的スキルの点数が高い傾向が見れた。父親、母親いずれかの「遊び分担の衡平さ」の評価においても、低い群で、子どもの問題行動の点数が高い傾向が見れた。	母親が正社員の場合、「世話の分担の衡平さ」に父親と母親に差があり、父親は、母親より自身への評価が高かった。
朴ら	2012	父	312	保育園	横断	就学前児	不明	育児関連Daily Hasslesの経験頻度10項目（育児タスク５項目、対応が求められる児の行動５項目）	マルトリートメント傾向	対応が求められる児の行動に対応するストレス強度が心理的虐待に関連していた。育児タスクに対するストレス強度は、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトのいずれにも関連していなかった。	
藤岡ら	2013	母	169	一歳半健診受診	横断	1	2011	「夫の育児参加」に対する満足度	育児困難感	夫の育児参加への満足度が低いと母親の育児困難感（夫・父親の役割問題、夫の心身不調、育児困難感、Difficult Baby、家庭機能の問題）が高かった。満足度の低さは、母親の抑うつ傾向とは関連がなかった。	
藤井ら	2013	明記なし（三歳健診調査票）	5357	三歳健診	横断	3	2007-2011	父親の育児・家事参加率	子どもの行動発達	父親の家事育児参加の無しが子の運動発達（階段を登れない）や精神言語発達（ごっこ遊びができない）、普段の行動（注意集中できない、乱暴でこまる）と関連していた。	
高城ら	2014	父	290	第三回全国家族調査	横断	0-5	2009	家事育児役割の回数（家事5項目、食事の用意、食事の後片付け、食料品や日用品の買い物、洗濯、掃除） （育児2項目、子どもと遊ぶ、子どもの身の回りの世話）	父親のQOL	家事育児役割と父親のQOLには直接の関連は見られなかった。配偶者の就労の有無で分けても、この結果は変わらなかった。	
大関ら	2014	父母	180組	保育園等	横断	乳幼児	2012-2013	相手の育児に満足	GHQ12 夫婦関係	父親、母親ともに「相手の育児に満足」は、夫婦関係尺度に関連していたが、重回帰分析では、夫婦関係尺度の点数は、母親のメンタルヘルスと関連していなかった。	父親の子育に満足と答えた母親は、全体の６８％であったのに対して、父親は、９６％と大きな差があった。
小山ら	2014	父母	62組	パパママ教室	縦断	乳児	2008-2009	育児行動に関する10項目（抱く、寝かしつけ、入浴、授乳、げっぷ、おむつ（尿）交換、おむつ（便）交換、着替え、遊び、お守り）	父親のSensitivity	授乳や着替えなどの育児行動が多いと父親の児へのSensitivityが上昇した。つまり子どもと関わる時間が多いと、児と関わりの質が向上する可能性が示唆された。	
森永ら	2015	父母	92組	一歳半健診受診	横断	3.5	2008	父親の親性に関する23項目（夫婦関係、父親としての自覚、児への親愛性） 父親の育児サポートに対する母親の認知に関する10項目（精神的サポート、手技的サポート、情報提供的サポート）	母親の育児負担感	父親の親性は、夫婦の関係性、父としての自覚、児への親愛性の三つの因子から構成されていた。父親の親性の高まりが、認知を通して母親の育児負担感の軽減につながる傾向が見られた。	母親の育児サポート認知に関しては、精神的なサポート認知、手技的サポート認知、情報的サポート認知の中で、精神的サポート認知の寄与が最も大きかった。

表3-3　父親の育児参加の影響に関する日本国内の研究（和文論文は、2010年以降、英文論文は2000年以降）

著者	年	調査対象者	参加人数	研究参加者の抽出方法	研究デザイン	子の年齢（アウトカム時点）	調査年度	父親の育児参加の測定内容	アウトカム	主な結果	追加の結果
鍋島ら	2015	父母	200組	幼稚園・保育園	横断	4-6	2010	父親の育児参加に関する40項目	子どもの認知・社会性の発達（父・母） 母親の育児不安	父親の育児参加の質問から、家事・育児参加、子どもとの遊び、父親役割、精神的サポート、しつけの5つの因子が抽出された。父親の「子どもとの遊び」は、子どもの社会性の発達や運動の発達と正の関連をしていた。 また、「子どもとの遊び」は、母親の育児の感動や夫婦関係と正の関連をしていた。父親役割は、母親の育児不安に関する全ての要因（育児の感動、夫婦関係、育児ストレス、育児支援、ママ友）と関連していた。	「育児のことを妻に話かける」などの父親役割が母親の育児不安の軽減に関連していた。
熊野	2017	父母	422人と437人	登録モニター	横断	未就学児	2013	父親・母親の育児感情に関する10項目（育児肯定感5項目、育児不安５項目）	父親・母親の幸福感	父親・母親それぞれで、育児不安が高いと幸福度が低く、育児肯定感が高いと幸福度も高かった。	共働き世帯の母親において、育児肯定感は、「親としての自分」に関連していたが、共働き世帯の父親において、育児肯定感は、「親としての自分」に関連していなかった。
加藤ら	2018	母	30483	２１世紀出生児縦断調査	縦断	5.5	2001-	父親の育児参加に関する６項目（食事の世話、おむつの取り替え、入浴、寝かしつけ、相手、散歩）	第二子・第三子出生	父親が積極的に参加していると、第二子・第三子が生まれやすい傾向が見られた。特に、三世代同居をしており、かつ父親が育児参加をしている家庭では、第三子が生まれやすい傾向が見られた。	
池田ら	2018	母	179	幼稚園・保育園・こども園	横断	3-6	2016	父親の育児参加に関する10項目	父親の親役割に対する母親の満足度	父親の育児参加の頻度が高いと、母親の満足感が高い傾向が見られた。	
瀧本ら	2019	父母	71組	一歳半健診受診	横断	1.5	2015	父親・母親の育児家事行動に関する19項目（相手行動5項目、世話行動6項目、精神的援助行動4項目、家事行動4項目）	父親・母親の夫婦関係満足度	母親が評価した父親の育児家事行動は母親の夫婦関係満足度に関連していた。母親が評価する父親の精神的援助行動が、母親の夫婦関係と正の相関をしており、重回帰分析で他の変数を調整しても有意だった。	母親と父親の夫婦関係満足度は、お互いの満足度の影響が最も大きく、相互に影響しあっている可能性が示唆された。また、夫婦関係満足度において、父親の精神的援助行動の重要性が示唆された。
Chengら	2009	母	270	Japan Children's Study	縦断	9M	2005-	コ・ペアレンティングに関する3項目	子どもの発達	コ・ペアレンティングが高いと、身体発達（Manipulation)、言語発達（Receptive language)、社会性（Social relationships)が高い傾向が見られた。	
Fujiwaraら	2009	母	42144	２１世紀出生児縦断調査	縦断	1.5	2001-	父親の育児参加に関する６項目（食事の世話、おむつの取り替え、入浴、寝かしつけ、相手、散歩）	ケガ	父親の積極的な育児参加がケガのリスクの低下と関連していた。特に、「子どもを散歩につれていく」とすべてのケガのアウトカムとの間に関連が見られた。	
Itoら	2013	母	39742	２１世紀出生児縦断調査	縦断	0.5	2001-	父親の育児参加に関する６項目（食事の世話、おむつの取り替え、入浴、寝かしつけ、相手、散歩）	母乳育児	父親の積極的な育児参加をしていると、子どもが6ヶ月時点で母乳育児を受けていない傾向が見られた。	
Satoら	2020	母	29584	２１世紀出生児縦断調査	縦断	3.5	2001-	父親の育児参加に関する６項目（食事の世話、おむつの取り替え、入浴、寝かしつけ、相手、散歩）	肥満	父親の積極的な育児参加が3.5歳時点での子どもの肥満のリスクの低下と関連していた。	

表3-1　父親の育児参加の影響に関する日本国内の研究（和文論文は、2010年以降、英文論文は2000年以降）

引用番号	著者	年	調査対象者	参加人数	研究参加者の抽出方法	研究デザイン	子の年齢（アウトカム時点）	調査年度	父親の育児参加の測定内容	アウトカム	主な結果	追加の結果
11	明野ら	2010	母	161	一歳半健診受診	横断	1.5	2007-2008	父親の育児サポートに関する母親の認知10項目（情緒的サポート、手段的サポート、情報的サポート）	母親の育児幸福感	認知得点が高いと育児幸福度（合計点および下位尺度５項目）が高い傾向が見られた。父親の帰宅時間（９時前、９時以降）や平日・休日の育児時間が母親の認知の高さと関連していた。	
12	森永	2010	父母	767	一歳半健診受診	横断	1.5	2006	父親の親性に関する23項目（役割遂行への不適応感、役割期待への負担感、人間的成長・責任感、児に対する親和性）	母親の育児負担感	父親が役割期待への負担感を感じていると、母親の育児負担感が高まっていた。父親の児に対する親和性が高いと母親の育児負担感が下がっていた。父親の人間的成長・責任は、母親の育児負担感と関連していなかった。	父親の「役割遂行への不適応感」が「役割期待への負担感」と関連していた。
13	小島ら	2010	父母	563組	幼稚園・保育園	横断	乳幼児	2005	父親の育児家事行動に関する19項目（世話行動、家事行動、相手行動、しつけ行動、妻との対話、危機管理行動）父親の育児家事行動に対する母親の評価に関する13項目（世話行動、家事行動、相手行動、しつけ行動、妻との対話、危機管理行動）	母親の育児に伴う感情	妻との対話を除く父親自身の育児家事行動評価と母親の育児負担感（困難感や疲労感）との間には関連がなかった。核家族群においては、母親が父親の育児家事行動を十分と評価していると母親の充実感が高く、困難感や疲労感が低かった。	核家族群において、父親自身の育児家事行動評価が高いと家族内コミュニケーションなどの家族機能も高い傾向が見られた。
14	朴ら	2011	父	319世帯	保育園	横断	未就学	不明	父親の育児参加に関する10項目（子どもと一緒に室内で遊ぶ、子どもに絵本を読み聞かせる、子供と一緒に外で遊ぶ、子どもを寝かしつける、子どもを風呂に入れる、子どもに食事をさせる、子どもの下着等を替える、子どもをあやす、保育園や幼稚園の送り迎えをする、看病をする/病院につれていく）	心理的ウェルビーイング（夫婦関係満足感と精神的健康）	父親の育児参加は本人の家族・家庭への貢献感の認知を媒介して夫婦関係満足感と精神的健康に正の影響が見られた。しかし、父親の育児参加と夫婦関係満足感と精神的健康との間に直接の関連は見られなかった。	
15	田辺ら	2011	父	703	私立幼稚園・保育園	横断	乳幼児	2007-2008	育児行動（9項目）・家事行動（6項目）	ウェルビーイング（父親である自己受容、家庭面、仕事面、心理面、身体面）	労働時間が短い父親の群では、育児行動が父親である自己受容、家庭面に正の影響が見られた。労働時間が長い父親の群では、育児行動が父親である自己受容、家庭面、仕事面に正の影響が見られた。	
16	桐野ら	2011	父母	278世帯	4と同じ	横断	未就学	不明	父親の育児参加に関する10項目（子どもと一緒に室内で遊ぶ、子どもに絵本を読み聞かせる、子供と一緒に外で遊ぶ、子どもを寝かしつける、子どもを風呂に入れる、子どもに食事をさせる、子どもの下着等を替える、子どもをあやす、保育園や幼稚園の送り迎えをする、看病をする/病院につれていく） 父親の育児サポートに関する母親の認知尺度（情緒的サポートのみ、４項目）	母親の夫婦関係満足感 母親の健康関連QOL	父親の育児参加は、母親の夫婦関係満足感や精神的健康とは関連していなかった。しかし、父親の情緒的育児サポートに関する母親の認知には関連しており、父親の情緒的サポートの母親の認知は、夫婦関係満足感に関連していた。	父親の育児参加は、母親の認知を媒介して、間接的に母親の夫婦関係満足感や精神的健康感に関連していた。